

# 三菱地所グループ CSR報告書2010



## 環境負荷低減に向けて

### 設計監理事業の環境配慮提案

(株)三菱地所設計(設計監理事業)では、建築物のライフサイクルで発生する環境負荷は設計段階で低減できるとの考えのもと、環境問題に積極的に取り組んでいます。特に発注者への環境共生技術の提案をISO14001環境マネジメントシステムの中核に位置付けています。

三菱地所設計が多くの環境共生技術の提案を行ったプロジェクトの一例として、2009年3月に竣工したミドリ安全(株)発注による「ミドリ安全本社ビル」があります。

風の通り道「ブリーゼパス」を利用した省エネ空調システム等を提案し、持続可能な社会の構築と地球環境の保全に寄与する快適で環境にやさしい建築物となりました。



ミドリ安全本社ビル  
(東京都渋谷区)

[web](#) 環境共生技術の詳細は  
ホームページ参照

### マンションにおける土壌汚染対策

三菱地所(株)住宅事業グループでは、すべての開発物件の用地取得について、事前に土壌汚染調査を行い、必要に応じて対策・処理をしています。

用地取得にあたっては担当者がチェックシートを使ってチェックし、さらにその内容を専門調査会社がチェックします。用地取得の際には、専門調査会社による調査報告書の添付・提出を義務付け、用地取得の判断後は汚染の危険性の有無に関わらず、専門調査会社の詳細調査

を義務付けています。

土地売買契約にあたっては、汚染に関しての土地売主の責任・負担を明確にし、必要に応じて対策を実施しています。

[web](#) 土壌汚染調査から引渡しの流れは  
ホームページ参照

### 米国・英国における 環境性能評価の認証取得

米国では、ロックフェラーグループ社が2008年より、新規開発事業全物件でLEED(※)認証取得をめざすこととし、アリゾナ州およびジョージア州の開発物件でLEED認証を取得しました。また、既存の保有ビルにおいても認証の取得作業を進めており、ニューヨークにおいて同社が保有するマグローヒルビルがLEED認証を取得しました。同じくニューヨークにて保有するタイムライフビルのEnergy Star評価(省エネ化を推進する制度)のさらなる向上をめざした取り組みを進めています。一方、英国でも、三菱地所は新規物件の開発にあたりBREEAM(※)の認証の取得に積極的に取り組んでいます。中でもセントラル・セント・ジャイルズは申請時最高ランクであったExcellentを取得しています。



マグローヒルビル

セントラル・セント・ジャイルズ

※ LEED: Leadership in Energy & Environmental Design  
→米国グリーンビルディング協会による建造物の環境性能評価システム

※ BREEAM: Building Research Establishment Environment Assessment Method  
→英国建築研究所による建造物の環境性能評価システム

## エコロジカルな ひとつづくり

### 環境キャンペーンを開催

三菱地所(株)では、社員の環境意識の向上を図るため、2000年度から毎年「環境キャンペーン」を開催し、有識者による講演会やパネル等の展示会を行っています。2009年6月の環境月間にはCSRデザイン&ランドスケープ設計事務所(当時)(※)代表取締役の平松宏城氏を講師に招き、「米国でのグリーンビルディングへの意識の高まり」と題して講演いただき、三菱地所およびグループ会社の多くの社員が聴講しました。講演では、米国におけるグリーンビルディングへの意識の高まりとLEED認証制度などについて説明を受け、今後世界的に競争力を高めていくための施策について学びました。



環境キャンペーン講演会

※ CSRデザイン&ランドスケープ株式会社(現在)

### CSR講演会を開催

三菱地所(株)では、グループ会社を含めた経営層、幹部社員を対象として毎年10月のCSR推進月間に「CSR講演会」を開催しています。幅広いCSRのジャンルからその年の社会情勢に応じて講演テーマを選定していますが、2009年度は「不動産事業にとっての生物多様性」をテーマに、(株)レスポンスアビリティ代表取締役の足立直樹氏にご講演いただきました。



CSR講演会